

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●阪神ジュベナイルフィリーズはアスコリピチェーノが優勝

12月10日(日)に行われた阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)では、アスコリピチェーノ(牝2歳/美浦・黒岩陽一厩舎)が優勝しました。勝ちタイムの1分32秒6は、2019年にレシステンシアが記録した1分32秒7を更新するレースレコードでした。

●坂井瑠星騎手がJRA年間100勝を達成

12月9日(土)の5回阪神3日・第3レースではペプチドシュチクが1着となり、同馬に騎乗した坂井瑠星騎手(栗東・矢作芳人厩舎)は、自身初、本年7人目となるJRA年間100勝を達成しました。

●L.モリス騎手がJRA初勝利をあげる

12月10日(日)の5回阪神4日・第5レースではストーンズが1着となり、同馬に騎乗したルーク・モリス騎手(イギリス)は、JRA初勝利(18戦目)をあげました。

●2024年度の新規調教師免許試験に9名が合格

2024年度の新規調教師免許試験に、秋山真一郎、浅利英明、佐藤悠太、高橋一哉、田中勝春、柄崎将寿、東田明士、前川恭子(女性調教師はJRA初)、宮地貴稔の9名が合格しました。

●ダンシングプリンスの競走馬登録抹消

2022年JBCスプリント(Jpn I)などの勝ち馬ダンシングプリンス(牝7歳/美浦・宮田敬介厩舎/JRA通算9戦5勝・地方5戦2勝・海外2戦1勝)は、11月8日(水)付で競走馬登録を抹消されました。今後は北海道新ひだか町のレックススタッドで種牡馬となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●無敗馬フォーエバーヤングが全日本2歳優駿(川崎)を圧勝

全日本2歳優駿(Jpn I、12月13日、川崎、1600m)は、2番手から3コーナー手前で先頭に立った1番人気のフォーエバーヤング(坂井瑠星騎手、牝、父リアルスティール)が2番人気のイーグルノワールを7馬身引き離し、デビュー以来3連勝を達成。ナスティウエザーは4着、3番人気のサトノフェニックスは5着、ゼルトザームは8着に敗れています。

●神奈川記念(川崎)はホリー・ドイル騎手騎乗のヴィブラフォン

単発のJRAオープンとの交流競走、神奈川記念(3歳以上、12月14日、川崎、1600m)は、5番人気のヴィブラフォン(ホリー・ドイル騎手=イギリス、牝4歳、父ドレフォン)が2番手から3コーナーで前を捉え、3番人気のキャリックアリードを抑えて優勝。1番人気のユティタムは3着、オマツリオトコは5着、バーデンヴァイラーは6着、2番人気のニューモニュメントは7着でした。

●12月21日の名古屋グランプリ(名古屋)はディクテオンが有力

名古屋グランプリ(Jpn II、12月21日、名古屋、2100m)は、浦和記念からの重賞連勝を狙うディクテオンが中心、以下グランプリッジ、テリオスベルの牝馬勢、ミトノオー、メイショウフンジンまでが争奪圏内と考えられます。

●サンライズホークらが参戦、12月20日の兵庫ゴールドT(園田)

兵庫ゴールドトロフィー(Jpn III、12月20日、園田、1400m)は、傑出馬不在の混戦模様で、サンライズホーク、セキフウ、マルモリスベシャルの順に有力視され、ケイアイドリーは59.5%のハンドと距離の克服が課題となりそうです。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●香港国際競走〜日本馬はゼッフィーロの2着が最高着順

4つのG1を1日でまとめて行う香港国際競走が現地12月10日に香港のシャティン競馬場で開催されました。今年は日本から13頭が参戦しましたが、残念ながら勝利は挙げられず、G1香港ヴァーズ(3歳上、芝2400m)で2着に入ったゼッフィーロ(牝4歳、栗東・池江泰寿厩舎)の2着が最高の着順でした。その香港ヴァーズを制したのはM. ギュイヨン騎手が手綱を取ったフランスのジュンコ(騾4歳、父アンテロ、A. ファーブル厩舎)。出遅れて最後方からの競馬となりましたが、直線で外から鋭く伸びてゼッフィーロに1馬身差をつけて優勝。前走のG1バイエルン大賞(芝2400m)に続くG1連勝としました。

そのほかの3つのG1は全て香港調教馬が勝利。G1香港スプリント(3歳上、芝1200m)は昨年勝負どころで進路がなく6着だったZ. パートン騎手騎乗のラッキースワイネス(騾5歳、父スワイネス、K. マン厩舎)が雪辱を遂げての優勝。G1香港マイル(3歳上、芝1600m)はゴールデンシックスティ(騾8歳、父メダリアドロ、K. ルイ厩舎)がC. ホー騎手の手綱で中国から突き抜けて2020、21年に続くこのレース3勝目を記録。そしてメインのG1香港カップ(3歳上、芝2000m)はJ. マクドナルド騎手を背にしたロマンチックウオリアー(騾5歳、父アクラメーション、C. シャム厩舎)が早め先頭から最後はアイルランドのルクセンブルクと日本のヒシイグアスの追い上げをわずかに凌いで優勝。このレース連覇としました。